

## BOE、タカ派姿勢を強めるかに注目

- ◆ポンド、景気回復期待と感染拡大警戒との綱引きで引き続き方向感が乏しい
- ◆BOE 会合、政策を据え置きもタカ派に偏るか議事要旨に注目
- ◆加ドル、センチメントの変化やドルに左右も加総選挙結果に注意

### 予想レンジ

ポンド円 149.00-153.50 円

加ドル円 84.50-88.50 円

### 9月20日週の展望

ポンドは景気回復期待とコロナ感染拡大への警戒感が交錯する中、方向感に乏しい相場展開が続いている。コロナの新規感染者数の拡大ペースは強まっていないものの、英国は引き続き感染拡大が世界でもっとも深刻な国である。一方で、規制緩和により最近の経済指標では景気回復の勢いが増していることも伺える。来週のイングランド銀行 (BOE) の金融政策会合に注目。

23日のBOE金融政策会合では金融政策の据え置きが見込まれるも、インフレが予想以上に加速し雇用データも好調であることから、金融政策委員会 (MPC) のタカ派姿勢が強まる可能性があり、議事要旨が注目される。8月の会合では全員一致で政策金利の据え置きを決定。債券買入れ目標の縮小を主張したのはサンダース委員一人にとどまったが、景気回復が順調であれば、見通し期間において若干の引き締めが必要であると、金融引き締めが視野に入っている点が明記された。利上げ検討に向けて最低条件が整ったと考えるメンバーと回復の力強さが十分ではないと考えるメンバーは4対4と真っ二つに分かれた。8月会合は8人で開催されたが、9月会合からキャサリン・マン委員が加わる。

今週発表された英雇用・物価データが強い結果だったことを受けて、市場では来年の利上げ観測が強まっている。短期金融市場では5月時点で来年末まで0.15%の利上げを想定していたが、さらに0.25%の利上げ予想が織り込まれている。8月の消費者物価指数 (CPI) は前年比で予想を上回る+3.2%と約9年ぶりの大幅な伸びとなった。また、8月の雇用者数は前月から24.1万人増と過去最大の増加幅を記録し、8月の求人数は103.4万人と2001年の統計開始以来最高となった。人手不足が予想以上に長引けば、インフレが高止まりし、BOEが金融緩和縮小の前倒しに動く可能性がある。景気への配慮でBOEは引き締めに対する慎重さを崩していないものの、インフレの加速は懸念材料。まずはテーパリング (量的緩和縮小) に関する議論が深まりそうだ。

加ドルは引き続きリスクオン・オフのセンチメントの変化に左右されそうだが、来週は米連邦準備理事会 (FOMC) の結果公表を背景としたドルの動きにも注目。また、加ドルの動きに大きな影響はないと思われるが、20日のカナダ総選挙でトルド首相率いる自由党の支持率が過半数議席に届かなかった場合、政治リスクの高まりで加ドルに売り圧力が強まる可能性がある。トルド首相は家計・企業向けの大規模支出やコロナ対策の実績を強みに早期選挙の賭けに出たが、パンデミックが収まらないうちの選挙に対する世論も厳しく、選挙の行方は不透明感を増している。

### 9月13日週の回顧

ポンドは良好な英経済指標が下支えとなるも、リスクオフの円買い・ドル買いの動きも見られ、ポンドドルは1.39ドル前半、ポンド円は152円後半で上値が抑えられた。加ドルは原油高や予想比上振れの加8月CPIを支えに下げ渋り、ドル/加ドルは1.26加ドル台、加ドル円は86円台を中心に小動きにとどまった。(了)